E 36　家庭生活の社会化現象と乳幼児保育の関連について

愛知女子短大　岡野雅子

目的　近年、家庭生活において社会化現象は著しい。また、ヒトを人間に育てあげる営みである育児行動は家庭生活のもつ種々の機能の中で最も重要なものの一つである。最近、青少年期の問題行動の多発状況の中で、現代の母親は育児行動が下手になった、とも言われている。そこで、今日の乳幼児保育の現状は、家庭生活の社会化現象がどのように影響し、関連しているかを、実証的に探ることを試みる。

方法　3才以下の乳幼児を持つ母親に、保健所の健康診断来所時、児童センター来所時、保育園などにより、面接調査を行なった（一部は質問紙調査）。計143名（有職59名、無職84名。保育園保育児39名、家庭保育児104名）。調査時期1982年6月。（なお、調査地域は、名古屋から約20kmのI市で、従来の古い町並と農村の中に、都市通勤者の新興住宅地が急速に増加している。）

結果　①家庭生活の社会化：子どもの年令の上昇に伴い食生活の社会化は進み、衣生活住生活はむしろ後退傾向を示す。全体に母親の有職群の方がやや社会化が進んでいるが、3才児では両群の差は縮少する。②育児行動の社会化：全体では有職群が社会化が進んでいるが、年令上昇に伴い有職無職の両群とも進む。③家庭生活の社会化と育児行動の社会化：全体では相関がやや認められる。食生活は比較的関係が深く、次いで衣生活で、住生活は関係が見い出せない。年令要因を排除すると衣生活との関係が見られ、母親の職の有無の要因を排除すると食・衣生活との関係がやや認められる。④家庭生活の社会化と育児意識：有職群は子育てに不安が強く、子との接触が少なすぎると思う群の方が、無職群では子育てはまあまあ、子との接触が多すぎると思う群の方が、家庭生活の社会化が進んでいる。